

カラーユニバーサルデザイン



ものづくりにやさしさという価値を

カラーユニバーサルデザインとは

色弱者にも配慮し、より多くの人々が利用しやすい製品や施設・建築物、環境、サービス、情報を提供するという考え方

色弱者の割合

日本では男性の20人に1人、女性の場合は500人に1人。日本全体では320万人以上いるとされています。

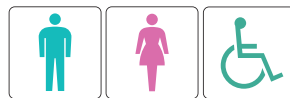
さらに色弱者の割合は欧米ではさらに高く、男性の8～10%、アフリカでも2～4%あり、世界全体で2億人を超えるとされています。

カラーユニバーサルデザインの価値

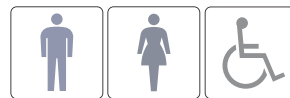
色弱者のためだけにではなく、色弱者にも配慮しデザインすることは結果として一般色覚者にとっても「整理された見やすいデザイン」が作られます。従ってカラーユニバーサルデザインは全ての人に価値あるものとなります。操作スイッチについては工場の生産ラインだけでなく、公共施設、交通などのインフラ、食品機械、医療装置などで多くの操作スイッチ、押しボタンスイッチが使用されています。医療現場においては操作ミスにより人命にかかわる事故、インフラにおいては人身事故、交通事故、火災事故など操作一つで大きな事故につながる事が考えられます。社会の色彩環境、多様な色覚をもつ様々な人々にとって使いやすいものに改善していくことで「ひとにやさしい作業現場づくり」を目指してものづくりを行いましょう。

色覚異常をもつ人の色の見え方 (シミュレーション例)

一般色覚者 (C型)



色弱者 (P型) シミュレーション例



銘板の色使い、タッチパネルなどの文字表示にははっきりとした明暗の差(コントラスト)をつけましょう

見分けにくい色の例



文字の色と背景の色に明暗の差(コントラスト)がないため、文字が読みにくいまたは文字が書かれていることに気がつかない可能性があります。

見分けやすい色の例



背景の色と文字の色には、はっきりとした明暗の差(コントラスト)をつけます。暗い色の背景には明るい色を文字に使用し、明るい色の背景には暗い色を文字に使用し組み合わせます。

本ページの記載内容はNPO法人カラーユニバーサルデザイン機構からの情報、試算結果、考え方、事例を元に引用掲載しております。

おすすめ操作機器

カラーユニバーサルデザインに準拠*

一目で分かり、分けられるような配色でデザイン



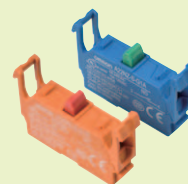
押ボタンスイッチ

A22N 詳細は「オムロン A22N」で検索



取付台

取付台の黒に対しレバーを黄色で明暗の差をつけています。



スイッチユニット

同形状で異なる機能部品を青・橙で区別しています。可動部についても青ケーシングに緑で区別、橙ケーシングに赤で区別



補強板

取付台に取り付けられたユニットを一体化させるための補強板を白色で区別しています。

*「黄青白」「赤青白」の組み合わせがカラーユニバーサルデザインに準拠しています。